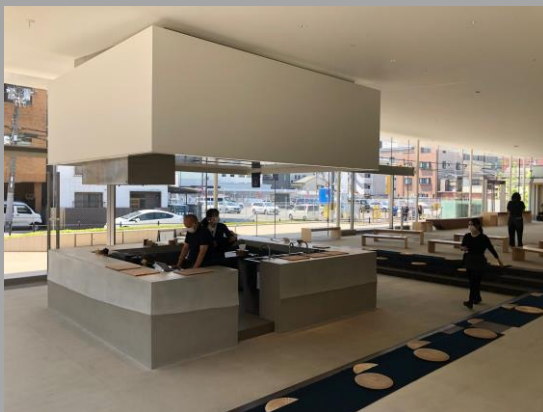


## 06.藤田美術館



最寄りの駅を出たらすぐに白の庇と硝子のファサードに囲まれたきれいな建物が目に入ってきた。道路側はのランドスケープは必要最低限の装飾と植栽で、建物の入口まで緩やかなスロープで自然なつながりを創っている。エントランスのホールの天井と庇のラインをつなげており、全体的に重心を低く横ラインが強調された安定感のある外観がとてもきれいで、その日の天気にも恵まれ、白い外観と青空のコントラストも美しく感じた。内部もファサード全面をシームレスのガラスにすることでホールと茶室、外部空間のつながりを持たせ、広がりある空間になっていた。

建物の設計段階で藤田館長の意向が設計に強く反映されたと事前に調べた中であつた通り、展示スペースは美術品をどう見せるかコンセプトがしっかりされており、美術品を魅せる空間づくりと美術品への館長の思いを強く感じた。

展示スペースを抜けると隣の庭園とも垣根なくつながっており、一周見終わると一つの物語を見終えたようなストーリー性を感じた。見せ掛けだけでなく、稀にみるとても完成度の高い建築だと思う。

小見 友秀